

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

| | | | | |
|---------------|---------------|--------|-----|-----|
| 受理番号 | 学 校 | 教 科 | 種 目 | 学 年 |
| 106-116 | 高等学校 | 地理歴史科 | 地図 | |
| 発行者の 番号・略称 | 教科書の 記号・番号 | 教科書名 | | |
| 46 帝国 | 地図 046-901 | 新詳高等地図 | | |

1. 編修の趣旨及び留意点

○グローバル化や情報化、少子高齢化などの社会の急速な変化を捉えながら、平和で民主的な国家及び社会を形成するために必要な資質・能力を育成できる地図帳を目指して編修した。特に、これからの社会を生きていく高校生に対し、“現代社会の世界・日本の現状を的確に捉え、これからの時代を切り開く創造力”が育成できるように留意した。

2. 編修の基本方針

○教育基本法第2条に示される教育の目標を達成するために、下記のような基本方針に基づいて編修した。

1. 新しくて詳しい、時代の様相を捉えた地図帳

- ・ 基本図・主題図を中心に、時代の変化に合わせたさまざまな表現の地図を掲載し、世界・日本各地の地理的な諸事象を多面的・多角的に捉えられるようにした。
- ・ 特集ページ「Global Eye」を設けて、複数の地図や資料の読み取りから世界各地の地域の特徴や課題を把握し、その上で、他地域との結びつきや影響、その背景などを考察していく思考力を育てるようにした。

2. 地理学習でより使いやすく、主体的に考えられる地図帳

- ・ 地図の読み解きを促す「読図」コーナーを随所に設け、地理的な見方・考え方を働かせながら地図を読み取る力を身につけられるようにした。
- ・ 環境問題や資源・エネルギー問題など地球的課題を考えるページや、自然災害・防災を考える特集ページを設け、これからの時代を切り開く素地を養えるようにした。

3. 対照表

| 図書の構成 | 特に意を用いた点や特色 | 該当箇所 |
|--------|--|-------|
| 全体を通して | <ul style="list-style-type: none"> ○空間認識をともなった幅広い知識や教養が身につくよう、日本・世界の自然、産業、歴史など、さまざまな情報を地図上に幅広く取り上げた。(第1号) ○生徒が主体的に地図を読み取る力を身につけられるよう、地理的な見方・考え方を働かせる問い「読図」を随所に設けた。(第2号) ○地図などの資料から持続可能な開発目標について考えられるよう、主題図ページには「SDGs」に関する問いを設けた。(第4号) ○複数の地図や資料を結びつけて、諸問題を考える力を身につけられるよう、関連するページや図を示す「リンク」を随所に配置した。(第2号) ○デジタルコンテンツを活用して理解を深められるよう、二次元コードを随所に配置した。(第2号) | 本書全体 |
| 世界の国々 | <ul style="list-style-type: none"> ○世界の国々の位置・国名・首都名などを端的に把握できるようにした。(第1号) ○おもな国の国旗から、国旗への関心が高められるようにした。(第5号) | p.1-2 |

| | | |
|----------------|--|---------------------------|
| 地図帳の使い方・GIS | <ul style="list-style-type: none"> ○基本的な地図の種類や地図の見方を示し、地図帳をより活用できるようにした。(第1号) ○GISの仕組みや有用性を示し、また、WebGISを目的や用途によって適切に選択・活用する力を養えるようにした。(第1号) | p.4-6 |
| 世界の基本図・拡大図・都市図 | <ul style="list-style-type: none"> ○基本となる地図で国名や主要な地名、自然地域名称などをおさえ、拡大図で詳細な地名や自然地域名称を確認できるようにした。(第1号) ○拡大図に「植生表現」や「土地利用表現」を用いることで、それぞれの地域でどのような土地利用がなされ、人々の生活が営まれているのかが分かるようにした。また、各地でさかんな鉱工業に関しても多様な絵記号を配し、視覚的に読み取れるようにした。(第2号) ○環境への関心が高められるよう、「世界自然遺産」、「ラムサール条約登録湿地」などの特殊凡例を用いた。(第4号) ○日本との位置関係や大きさを比べながら世界を学べるよう、同縮尺・同緯度の日本図を随所に設置した。(第5号) | p.7-12 など |
| 世界の鳥瞰図 | <ul style="list-style-type: none"> ○中国・ヨーロッパ・北アメリカでは迫力ある鳥瞰図を掲載し、地域の姿を直感的に捉えられるようにした。(第1号) | p.13-14、51-52、81-82 |
| 世界の地域主題図 | <ul style="list-style-type: none"> ○世界の地域ごとに歴史や民族、農業や工業などの産業、人々の暮らしのようすが分かる主題図を豊富に掲載した。(第1号) ○特集ページ「Global Eye」を全9地域に設けた。世界各地の特徴や課題に目を向けるとともに、他地域に与える影響やその背景を複数の地図や資料を活用しながら探究できるようにした。(第3号) | p.19-20 など p.22 など |
| 日本の位置とまわりの国々 | <ul style="list-style-type: none"> ○近隣諸国の中での日本の位置や、領土の広がりを理解できるよう、日本の領土・領域や排他的経済水域を明確に掲載するとともに、日本の東西南北端の写真や、日本固有の領土に関する主題図も設けた。(第5号) | p.109-110 |
| 日本の基本図・拡大図・都市図 | <ul style="list-style-type: none"> ○基本図で日本の位置や47都道府県、主要な都市などを大づかみに捉え、拡大図で各地方の詳細な地名や自然地域名称を確認できるように配慮した。(第1号) ○拡大図に各地でさかんな鉱工業の絵記号を配し、視覚的に読み取れるようにした。また、日本のおもな都市に関しては都市図を多く掲載し、それぞれの都市の土地利用のようすなどから、人々の生活の営みが伝わるように配慮した。(第2号) ○「世界自然遺産」、「ラムサール条約登録湿地」などの特殊凡例を配し、環境への関心が高められるように配慮した。(第4号) ○地域の文化にとって重要な旧市町村名を字名で記載した。(第5号) | p.111-124、127-132、135-140 |
| 日本の拡大都市圏図 | <ul style="list-style-type: none"> ○詳細な土地の高さ(陸高)で色分けした地図上に、活断層の分布や広域防災拠点、水門などを示し、地理的な特徴に応じた自然災害への備えの重要性が理解できるようにした。(第4号) | p.125-126、133-134 |
| 世界の基礎主題図 | <ul style="list-style-type: none"> ○資源・エネルギー問題や食料・水問題、人口・都市問題など、現代社会が抱える地球的課題を読み取れる主題図を多く配し、これらの諸課題の背景などを考えられるようにした。(第3号) ○農林水産業や工業などを捉える主題図を掲載し、社会を支える産業への理解を深められるようにした。(第2号) ○環境問題に関するページを設け、さまざまな環境問題の分布や原因、各地での現状や未来予測を把握し、環境保全に向けての意識が高められるように配慮した。(第4号) | p.141-162 |

| | | |
|-------------|---|-----------|
| 日本の主題図 | ○我が国の国土の自然環境や人口・都市、産業、交通などの幅広い知識と教養を身に付けられるよう、これらを系統的におさえられる主題図を豊富に掲載した。(第1号) ○自然災害・防災の特集ページを設け、地震や気象災害など自然災害の特徴を理解できるようにした。また、過去に自然災害が起こった地域の新旧の地形図や治水地形分類図、ハザードマップを掲載し、それらを比較して読み取ることで、災害が発生した背景や地域性を踏まえて自然災害に備えることの大切さを学べるようにした。(第4号) | p.163-174 |
| 地図投影法、地図の歴史 | ○基本図・主題図で用いられるさまざまな図法や、地図の成り立ちを示し、地図を目的や用途によって適切に選択・活用する力を養えるようにした。(第1号) | p.175-176 |
| 統計資料 | ○世界・日本とも統計資料を充実させることで、数字に裏付けられた世界・日本の姿、位置づけを理解できるようにした。(第1号) | p.177-188 |

4. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

1. 個別最適な学びに対応できる教科書

- ①地図帳全体を通して、二次元コードコンテンツを充実させ、個別最適な学びに対応できるようにした。
- ②地図帳全体に設置した「読図」では、一つの地図や資料から読み取る問いや、複数の地図や資料を比較しながら読み取る問いなど問いの難易度を分け、学習段階に応じて問いを選択して学習できるようにした。また、特集ページ「Global Eye」では、より探究学習を深められるよう「視点」・「探究」を設置した。

2. すべての生徒が読みやすい地図帳

- ①色覚に特性のある生徒でも識別しやすい色を使用した。
- ②国名や首都名など重要な地名は、可読性の高いユニバーサルデザインフォントを使用した。

3. 環境に優しい素材と堅牢な造本

- ①紙は生徒の負担にならないように、丈夫でありながら軽い、地図帳専用の特別な用紙を使用した。
- ②インキには、植物由来の油などを原料とするものを使用した。
- ③長期の使用に耐えられるよう、本の綴じ目を糸かがりした上で糊付けし、堅牢な製本とした。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当時数表)

| 受理番号 | 学校 | 教科 | 種目 | 学年 |
|---------------|---------------|--------|----|----|
| 106-116 | 高等学校 | 地理歴史科 | 地図 | |
| 発行者の 番号・略称 | 教科書の 記号・番号 | 教科書名 | | |
| 46 帝国 | 地図 046-901 | 新詳高等地図 | | |

1. 編修上特に意を用いた点や特色

○社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせて課題を追究したり解決したりする学習を通し、平和で民主的な国家及び社会を形成するために必要な資質・能力を育成できる地図帳となるよう、以下の点に配慮した。

1. 世界の地域的特色や時代の様相を捉えた地図帳

- ・基本となる地図は標高で配色する「等高段彩表現」で統一した。また、段彩に鮮やかな黄緑色などを用い、明るく見やすい配色を心がけた。
- ・周辺地域とのつながりが分かる拡大図を豊富に掲載した。「土地利用」や「植生」が分かる地図表現を導入したり、都市別の工業のようすが分かる工業記号を掲載したりすることで、生活文化や産業のようすが伝わるようにした。
- ・中国・ヨーロッパ・北アメリカには直感的に風土を捉えられる鳥瞰図を設けた。図中には生活、産業、著名な建築物などに関するイラストを配して、地域の特徴を概観できるようにした。
- ・世界各地の主題図を豊富に掲載した。地図や資料を複合的に読み取り、自然環境や資源、産業、生活文化などに関する空間的な規則性や傾向性、関連する課題の要因を捉えられるようにした。

2. 日本の国土の在り方を探究できる地図帳

- ・日本の領土や排他的経済水域などが学べる地図や、日本の北端から西端までを連続して見渡せる縮尺 500 万分の 1 の日本列島の地図を用意し、日本の国土の空間的な広がりを理解できるようにした。
- ・京阪神と東京の大都市圏には縮尺 50 万分の 1 の拡大図を設置するなど、適切な縮尺の地図で日本全国を網羅し、日本の国土の空間的な広がりや、都市の分布などを捉えられるようにした。
- ・大阪湾周辺と東京都周辺には詳細な陸高や地形のようすが分かる地図を設けた。断面図と合わせて地形のようすを読み解き、活断層の分布などから自然災害への備えについて考察できるようにした。
- ・自然災害・防災を考える特集ページを設けた。地震や気象災害の分布図から日本全体を概観し、新旧の地形図や治水地形分類図の読み取りなどから、地域性を踏まえた防災の重要性を理解し、自分の暮らす地域について考えられるようにした。

3. 「主題」や「問い」を中心にした地理学習に活用できる地図帳

- ・特集ページ「Global Eye」を新設し、主題テーマをもとに、地図や資料を複合的に読み取り、地域ごとの特徴や課題を捉えた上で、他地域との結びつきや影響、その背景などについて探究できるようにした。
- ・作業を伴う具体的な問い「読図」を設置し、地理的な見方・考え方を働かせながら地図や資料を読み取れるようにした。また、主題図ページには「SDGs」に関わるテーマが考えられる問いも設置した。
- ・関連するページや図には「リンク」を設置し、地図や資料を結びつけることで、諸問題を複合的に考えられるようにした。
- ・二次元コードを随所に設置し、デジタルコンテンツを活用して学習が深められるようにした。

4. すべての生徒への見やすさを追究した地図帳

- ・色覚に特性がある生徒でも色を判別して地図が読めるよう、色彩表現を工夫した。また、色彩だけでは判読が難しい場合は、模様を入れるなどして判別しやすい表現を追究した。
- ・タイトルやインデックス、世界の国名や首都名、日本の地名にユニバーサルデザインフォントを採用し、すべての生徒に見やすく読みやすいよう配慮した。

| 2. 対照表 | | | | |
|----------------|--|---|--|-------------------------------|
| 図書の構成・内容 | 構成・内容の特色 | 学習指導要領の内容 | | 該当箇所 |
| | | 地理総合 | 地理探究 | |
| 全体を通して | <ul style="list-style-type: none"> ・「読図」コーナーを随所に設け、作業を伴う具体的な学習を通して地理的な見方・考え方を働かせられるようにした。 ・「SDGs」コーナーを設け、地図から持続可能な開発目標について考えられるようにした。 ・二次元コードコンテンツを通して学習を深められるようにした。 | 全体 | 全体 | 全体 |
| 世界の国々 | <ul style="list-style-type: none"> ・世界の大陸や海の分布、我が国の国土や国々の位置関係を大きく捉えられるようにした。 ・EU や ASEAN などの地域機構を掲載し、国家間の結びつきを一覧できるようにした。 | A(1) B(1)(2) | B(1)(2) B(1)(2) | p.1-2 |
| 地図帳の使い方・GIS | <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な地図の種類や地図の見方を示し、地図を活用した学習を深められるようにした。 ・GIS が社会のさまざまな場面で役立つことを示し、有用性を理解した上で目的に応じて活用できるようにした。 | A(1) A(1) | C(1) | p.4-6 |
| 世界の基本図・拡大図・都市図 | <ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな図取りや図法、縮尺の地図を掲載し、目的に応じて活用できるようにした。 ・土地利用や植生が分かる拡大図を豊富に掲載し、人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたり、影響を与えたりして多様性をもつことを読み取れるようにした。 ・各地域の拡大図には工業の絵記号を掲載し、発達する工業の種類や立地を読み取れるようにした。 ・港湾・空港などの施設、道路や線路・航路を示し、交通網の分布や交通機関による結びつきなどを読み取れるようにした。 ・特徴的な自然地形名を地図中に表記し、その地形がみられる場所の地理的環境を考察できるようにした。 | A(1) B(1)(2) B(1) B(1)(2) B(1)(2) | A(1)-(5) B(1)(2) A(1)(2) B(2) A(2)B(2) A(3)B(2) | p.7-12 など |
| 世界の鳥瞰図 | <ul style="list-style-type: none"> ・中国・ヨーロッパ・北アメリカには鳥瞰図を設け、地域の特徴を概観することや、基本図と比較しながら地形を読み取れるようにした。また、図中に配置されたイラストから生活文化とのつながりを考察できるようにした。 | B(1) | B(2) | p.13-14 p.51-52 p.81-82 |
| 世界の地域主題図 | <ul style="list-style-type: none"> ・特集ページ「Global Eye」を地域ごとに設置し、地図や資料を比較しながら世界に影響が及ぶ主題を探究できるようにした。 ・各地域の自然環境、資源・エネルギー、産業、民族・宗教などの主題図をバランス良く配置し、さまざまな規模の地域を世界全体から偏りなく学習できるようにした。 | B(1)(2) | B(2) A(1)-(5) B(1) | p.22 など p.19-20 など |
| 日本の位置とまわりの国々 | <ul style="list-style-type: none"> ・日本の領土・領域や排他的経済水域を明確に掲載し、近隣諸国の中での日本の位置や領土の広がりを理解できるようにした。また、北方領土や竹島、尖閣諸島については写真や拡大図から位置や範囲を確認できるようにした。 | A(1) | C(1) | p.109-110 |
| 日本の基本図・拡大図・都市図 | <ul style="list-style-type: none"> ・適切な縮尺の地図で日本全国を網羅しており、日本の国土の空間的な広がりや、都市の分布などを捉えられるようにした。 | C(1)(2) | C(1) | p.111-124 など |

| | | | | |
|------------------------|--|-----------------|-----------------------------|------------------------|
| 日本の基本図・拡大図・都市図 (続き) | <ul style="list-style-type: none"> ・各地方の重要都市には都市図を、さらに京阪神と東京の大都市圏には50万分の1の拡大図を設け、都市圏や通勤圏などの地域構造を捉えられるようにした。 ・港湾・空港などの施設、道路や線路・航路を分かりやすく示し、交通網の分布や交通機関による結びつきなどを読み取れるようにした。 ・特徴的な自然地形名を地図中に表記し、その地形がみられる場所の地理的環境を考察できるようにした。 | C(1)(2) | C(1) | |
| | | C(1)(2) | C(1) | |
| 日本の拡大都市圏図 | <ul style="list-style-type: none"> ・詳細な土地の高さ(陸高)を示した地図や断面図を掲載し、地域の地理的課題を多面的・多角的に考察する手法を身につけられるようにした。 ・地図上に活断層の分布や広域防災拠点、水門などを示し、地理的な特徴に応じた自然災害への備えについて考察できるようにした。 | C(1)(2) | C(1) | p.125-126 p.133-134 |
| 世界の基礎主題図 | <ul style="list-style-type: none"> ・環境問題や資源・エネルギー問題、食料・水問題、人口・都市問題などの資料を掲載し、地球的課題を大観し理解できるようにした。 ・世界の自然環境、資源、産業、人口・都市、生活文化、言語・宗教、交通・通信、観光などに関する基礎資料を豊富に掲載し、系統地理的に考察できるようにした。 | B(2) | A(1) | p.141-162 |
| 日本の主題図 | <ul style="list-style-type: none"> ・日本の自然環境や資源・エネルギー、産業、人口・都市に関する資料を掲載し、国土の特色を考察したり、日本が抱える地理的な諸課題を探究したりできるようにした。 ・自然災害・防災に関する特集ページを設置し、同じ地域の新旧地形図や治水地形分類図を比較して読み取り、ハザードマップから地域性を踏まえた防災の重要性について考えられるようにした。 | B(1)(2) | C(1) | p.163-174 |
| 地図投影法、地球の歴史 | <ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな図法の特色や用途を体系的に示し、地図の役割や有用性を理解できるようにした。 ・WebGISの活用例を示し、課題を探究する際の手法として理解できるようにした。 | A(1) | A(1)-(5) B(1)(2) | p.175-176 |
| 統計資料 | <ul style="list-style-type: none"> ・地理的事象の基礎データを掲載し、現代世界を系統地理的・地誌的に考察できるようにした。 | B(1)(2) C(2) | A(1)-(5) B(1)(2) C(1) | p.177-188 |